日刊建設工業新聞（2026年9月1日付3面掲載）

【オリエンタルコンサルグローバル　インドネシアでエビ養殖事業加速】

インドネシアでエビ養殖事業加速

オリコンサルグローバル

オリエンタルコンサルタンツグローバルがインドネシアで展開するエビの養殖事業が軌道に乗り始めている。同社は6月に同国のエビ養殖事業会社に資本参画。2027年7月の出荷開始を目指し、養殖施設整備に8月から着手した。建設コンサルタントとして培ったインフラ整備技術を1次産業に生かす。現地の持続可能な産業育成と収益事業の確立を目指す。

8月14日に現地で養殖施設の起工式が行われた。オリコンサルグローバルと同国の養殖・農業技術専門企業であるインドミラ、不動産開発・投資専門会社のヨギャ・ヌサ・ヴェンチュラが設立したアクアカルチャー・コナウェ・ヌサンタラが事業を推進する。同社担当者のほか、現地行政関係者が出席した。

東南部のスラウェシ州に建設する養殖施設は、総面積33・9㌶、養殖池7・9㌶に及ぶ。クルマエビ科で小型のバナメイエビを育てる。操業当初は年間1300㌧、将来的に4000㌧規模の生産を見込む。

同社によれば世界的な人口増加と動物性タンパク質需要の拡大を受け、水産養殖は持続可能な食料供給手段として重要になっている。オリコンサルグローバルは建設コンサルタント事業の経験を生かし、養殖事業でインフラ技術を基盤とした投資型事業モデルの確立する。

施設はドローンを用いて日本から遠隔でモニタリングする（報道発表資料から）